

田野浦にこにこ塾

～子どもの居場所づくり 想いをつなげる～

北九州市立田野浦市民センター【市民センター】 館長 松尾 理恵子

1. 事業名

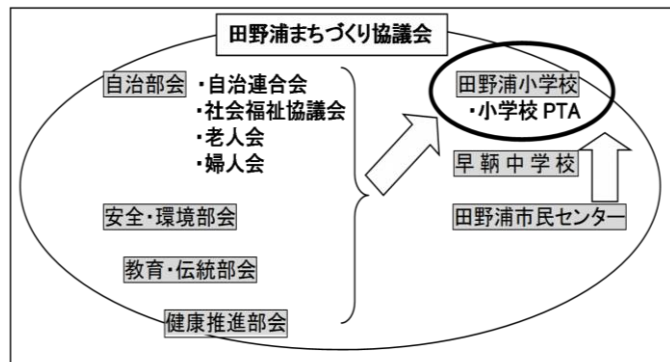
「田野浦にこにこ塾」 ～子どもの居場所づくり 想いをつなげる～

2. 事業の目的

- ①夏休みに子どもが安心して過ごすことができる居場所をつくり、働く保護者の応援をする。
- ②子どもの自主性を育む。

3. 事業の実施主体

田野浦小学校 PTA の想いに、まちづくり協議会が協力する。



4. 実施予算

参考 令和元年度 130,000 円
(補助金 130,000 円)

5. 経緯

- ①「働く保護者の応援をしたい、夏休みに子どもが安心して過ごせる居場所をつくりたいという、小学校一保護者の想いから始まった。この想いが小学校 PTA 有志に伝わり、市民センターやまちづくり協議会が協力をして、場所や予算面で援助を受け「田野浦にこにこ塾」が誕生する。
- ②1年目の活動に加え、NPO の協力を得て「子ども達の主体性を育む取り組み」を行う。(2年目～4年目)
- ③にこにこ塾の卒業生が中学生スタッフとして参加する。

6. 活動内容

- ①目的 子ども達の安全確保と学力向上。
自立性、主体性、規律性を育む。
規則正しい生活を送る。
- ②場所 田野浦市民センターの和室
- ③形式 寺子屋形式で自主学習を中心に各自が取り組む。
- ④時間帯 9時から12時の時間帯。(朝の集い、40分×3時限、終わりの集い)
- ⑤見守り 田野浦まちづくり協議会から、田野浦小学校保護者有志を中心に、老人会、婦人会、田野浦市民センター職員が随時見守る。
- ⑥当番制 日直当番を決め、高学年と低学年がペアとなって、同じ役割を持つ。



7. 様々な団体との協働

- ①市民センター講座との連携…「ドローン体験」「おはなしコンサート」など
- ②家庭教育学級との連携 …「親子スポーツ教室（サッカー体験）」
- ③社会福祉協議会との連携 …「ウェルクラブへの参加」「そば打ち体験」など
- ④食生活改善推進員との連携…「親子食育講座」
- ⑤地域の高齢者との連携 …「田野浦の歴史を知る」「昔遊び」など
- ⑥NPO との連携 …「子どもの主体性を育む取り組み」

8. 主体性を育む重要性

田野浦にこにこ塾2年目（H29年度）、「NPO 法人 Kid's Work」大久保大助氏を講師に迎え、「やりたいことをやってみよう」をテーマにグループワークを行った。

子ども達が主体となり、自ら考え行動する力を育むことを願い取り組んだ。「にこにこ塾で何をやりたいか？」様々な自由な発想の中から、本当にできること、皆がやりたいこと決めることから開始した。高学年が司会を担当し、意見をまとめることの大変さ、前に立って進行することの難しさを体験した。

最終的に「市民センターに宿泊したい！」に決定し、「にこまり会」と名付けて始動した。子ども達で自ら活動し、事前に調理実習をするなど、子ども達が主体となり準備を進めた。



9. 4年間の活動の経緯

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
回数	10回	15回	16回	14回
参加者数	19名	27名	26名	19名
主な取り組み	・自主学习が中心 ・家庭教育学級や市民センターと共催講座に参加	・H28年度の取組 + ・NPO法人を講師に迎え、子ども達がしたいことの実践（宿泊体験）	・H29年度の取組 + ・にこにこ塾卒業生が中学生スタッフとして参加（子ども屋台）	・H30年度の取組 + ・子どもたちがしたいこと（水遊び） ・事業継続に向けての話し合い
協力体制	市民センター（行政） まちづくり協議会 学校（PTA）	学校（PTA） 市民センター（行政） まちづくり協議会 NPO	学校（PTA） 市民センター（行政） まちづくり協議会 NPO 中学生スタッフ	学校（PTA） 市民センター（行政） まちづくり協議会 NPO 中学生スタッフ

〈1年目〉平成28年度（地域の様々な支援を受けて活動開始）

〈2年目〉平成29年度（小学生が自主的にしたいことに取り組み、成長していく）

〈3年目〉平成30年度（中学生スタッフ誕生・子どもたちの成長）

〈4年目〉令和元年度（子ども達の自主的活動の発展・課題の見直し）

10. 事業の成果

4年間継続してきた「田野浦にこにこ塾」から得たものとして、以下のものがある。

<子ども達>

- ・目的を達成するために、自ら考え実行する力を身に着けることができた。
- ・大変なこともあるが、その中にもやりがいを感じ、自信をつけることができた。
- ・他学年と行動することで仲間意識が芽生え、絆が深まった。
- ・小学生リーダーの経験者が、中学生スタッフとして下級生の支援をするという意識が芽生えた。
- ・中学生スタッフは、ワークショップで様々な意見をまとめるファシリテーターのスキルを身に着けることができた。

<保護者>

- ・親としてだけでなく、地域の一員としても多くのことを学ぶことが出来た。
- ・保護者同士や地域とのつながりが深まった。
- ・子ども達の力を信じて見守ることの大切さを学んだ。

<地域>

- ・基本理念「子ども達を田野浦のみんなで育てよう」という意識が、より強くなった。
- ◆個人の発想から始まった事業であるが、地域・行政・NPOの協働により、大きな成果を生み出すことが出来た。

11. 課題と展望

<課題>

事業を継続してきた中で見えてきた課題として、

- ・継続するには無理があつてはいけないため、運営する側の負担をいかに軽減するか。
- ・子ども達が充実した活動をするための予算の確保をどうするか。
- ・保護者・子ども達の意識の変化
 - ・にこにこ塾に求めることの変化
 - ・スタッフとして携わる保護者の減少
 - ・自主参加型の学びの場（学校との違い） など

勢いのあるまま事業を継続することの難しさを感じている。

◆事業の継続を希望する保護者も多いが、様々な課題も見えてくる中、継続可能なシステムをどう構築していくかが、特に今年度の課題としてあがっている。

<展望>

- ・この事業を継続することで、子ども達がより大きく成長することをさらに目指し、参加する側から運営側へと意識が変わることを目指す。
- 小学生リーダー → 中学生スタッフとして活動
- 子ども達が事業を通して得た力を、地域行事の中で発揮する場の創出
- ・まちづくりの基本理念「誰もが明るく安心して暮らせるまち田野浦」をめざし、まちづくり協議会の諸団体が協働して、地域の子どもの成長を見守る意識をより高める。

問合せ先

〒801-0885 北九州市門司区新開6番11号

北九州市立田野浦市民センター

TEL/FAX : 093-331-2025 ホームページ : www.ktqc01.net/moji/hycc/